

保険・年金 フォーカス

マイナ保険証の利用状況と意向

～マイナ保険証登録者・マイナポータルを介した健診・受診記録
を閲覧者はどのような人か

保険研究部 主任研究員 村松 容子
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

1—はじめに

国が進めている医療 DX において、マイナンバーカードを利用する場面は大きく分けて 2 つある¹。1 つ目は医療機関や薬局などで利用することで、加入資格を確認するとともに、患者が同意をすればこれまでに受けた健診の結果や診療情報、薬剤情報をその医療機関や薬局等で使用することができる。2 つ目は自分のパソコンやスマホで、マイナポータルを介して自身の健診結果や予防接種の情報、医療機関等における診療・薬剤情報を閲覧するために使う。こういった使用のためには、自分で保険証をマイナンバーカードに紐づけをする必要がある。しかし、現状ではマイナンバーカードを受け取ってから紐づけをしていない人や、紐づけをしていても医療機関で使用していない人、マイナポータルで健診結果や診療・薬剤情報を閲覧したことがない人が多いようだ。

2023 年 12 月に、これまでの健康保険証は 2024 年 12 月 2 日に廃止することが決まったが、どういった人がマイナンバーカードと保険証の紐づけを終えていて、どういった人がマイナポータルで健診結果や受診記録を閲覧することに興味を持っているのだろうか。本稿では、2023 年 6 月にニッセイ基礎研究所が行ったインターネット調査の結果を紹介する。

2—マイナンバーカードの保険証としての利用状況 ～国の公表資料から

2023 年 12 月末時点でマイナンバーカードは累計でおよそ 9905 万枚が交付された。死亡や有効期限切れにより廃止された枚数を除くと 9150 万枚（2023 年 1 月人口の約 73.0%にあたる。）が保有²されている。健康保険証への登録は 12 月半ばでおよそ 7180 万件と、交付枚数の 7 割強が済ませている³。

¹ 村松容子「データヘルス改革による健康・医療データ利活用推進の状況」ニッセイ基礎研究所 基礎研レポート（2023 年 1 月 11 日）

² 総務省「マイナンバーカード交付状況について」より。保有枚数とは、マイナンバーカード交付枚数（およそ 9905 万枚）から、死亡や有効期限切れなどにより廃止された枚数を除いた枚数。

³ デジタル庁「マイナンバーカードの普及に関するダッシュボード（2023 年 12 月 22 日時点）」
(https://www.digital.go.jp/resources/govdashboard/mynumber_penetration_rate、2024 年 1 月 11 日アクセス)

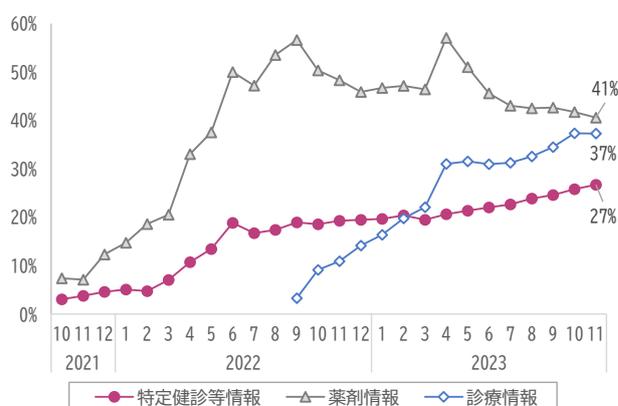
また、保険医療機関・薬局全体の9割近くが既にオンライン資格確認を開始している⁴が、医療機関においてマイナンバーカードで受診したのは727万件で、2023年11月で全受診の4.3%⁵に留まる。マイナンバーカードで受診した割合は、マイナンバーカードを使った方が初診料、再診料が安くなった2023年4月をピークとして、それ以降は低下している（図表1）。マイナンバーカードを持参し、閲覧に同意をした患者の194万件で特定健診情報、295万件で薬剤情報、271万件で診療情報の閲覧が行われていた。マイナンバーカードを利用した件数との比をみると、特定健診の結果と診療情報の閲覧はやや上昇しているが、薬剤情報の閲覧は上昇していない（図表2）。

マイナンバーカードの普及と保険証との紐づけが進み、カードリーダーを置く病院が増えたことで、当初と比べれば利用は増えてはいるが、活発に利用されるようになってきている様子はない。

図表1 マイナンバーカード利用率
(オンライン資格確認におけるマイナンバーカード利用数/
(マイナンバーカード利用数+従来の保険証利用数))



図表2 閲覧率
(各情報閲覧利用数/マイナンバーカード利用数)



(資料) 厚生労働省「オンライン資格確認の導入について（医療機関・薬局、システムベンダ向け）」
(2023年12月24日時点)

3 “マイナ保険証”利用状況・意向 ～インターネット調査から

マイナンバーカードと保険証の紐づけは、2021年3月に始まっており、本調査実施時点で十分に時間が経過していることや、これまでの保険証は、現在の方針どおりであれば、2024年秋には廃止されることが決まっていることを踏まえれば、現在、既に紐づけを終えている人、今後登録をする人、登録する予定はない人は、それぞれ、健康保険証の使い方、および医療サービスや情報セキュリティ等についての考え方が異なることが推測できる。

そこで、ニッセイ基礎研究所が2023年6月に実施した調査を使って、どういった人がマイナンバーカードと保険証の紐づけを終えていて、どういった人がマイナポータルで健診結果や受診記録を閲覧

⁴ 厚生労働省「オンライン資格確認の導入について（医療機関・薬局、システムベンダ向け）」（2023年12月24日時点）によると、保険医療機関・薬局全体の91.6%が準備を完了しており89.6%で運用を開始している。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08280.html、2024年1月11日アクセス)

⁵ 厚生労働省「オンライン資格確認の導入について（医療機関・薬局、システムベンダ向け）」（2023年12月24日時点）オンライン資格確認のマイナンバーカード利用数/（マイナンバーカード利用数+従来の保険証利用数）で計算した。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08280.html、2024年1月11日アクセス)

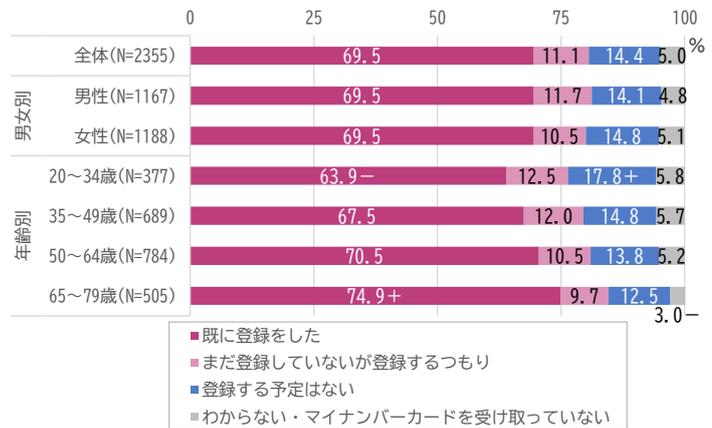
することに関心を持っているのかをみる。使用したのはニッセイ基礎研究所が2023年6月に実施した「生活に関する調査」の結果である。本調査では、消費者の価値観やライフスタイル、生活リスクに対する認識を確認するためにライフスタイルや生活行動、生活不安等幅広い質問を行っている。調査は全国の20～74歳の男女を対象に行ったインターネット調査で、回答数は2583件だった。本稿では、本調査のうち、健康保険に加入していることが確認できた2355件を使った。

1 | 保険証紐づけ状況

本調査において、マイナ保険証に登録（マイナンバーカードと保険証の紐づけ）をしたか尋ねたところ、「既に登録をした」と回答したのは69.5%だった。「まだ登録していないが登録するつもり」は11.1%、「登録する予定はない」は14.4%、「わからない・マイナンバーカードを受け取っていない」は5.0%だった（図表3）。

まず、性別・年齢別にみると、男女差は小さかったが、年齢が高いほど「既に登録をした」が高く、年齢が低いほど「登録する予定はない」が高かった。

図表3 マイナ保険証への登録状況（男女・年齢別）



(注) 全体と比べて差のある数値に± (5%有意水準)
(出典) ニッセイ基礎研究所「生活に関する調査」(2023年6月)

図表4 マイナ保険証への登録状況(考え方別)

	N	既に登録をした	まだ登録していないが登録するつもり	登録する予定はない	わからない・マイナンバーカードを受け取っていない	
全体[再掲]	2,355	69.5	11.1	14.4	5.0	
健康状態	健康計(注1)	1,714	70.7+	10.9	14.4	4.1-
	健康ではない計	641	66.5	11.7	14.7	7.2+
定期的な投薬・通院を要する持病の有無	ある	894	71.9+	10.7	12.6	4.7
	ない	1,461	68.0-	11.3	15.5	5.1
オンライン診療・処方有無	利用あり計(注2)	93	65.6	12.9	18.3	3.2
	利用なし計	2,262	69.7	11.0	14.3	5.0
自分の健康状態は、いつも自分で把握している	あてはまる	573	72.8+	9.4	13.6	4.2
	あてはまらない	1,782	68.5	11.6	14.7	5.2
手厚い医療サービスを受けられないこと	不安計(注3)	1,006	69.2	12.3	13.3	5.2
	不安でない計	406	70.7	10.1	16.3	3.0-
医療ミスや院内感染による被害を受けること	不安計(注3)	893	69.4	12.0	13.0	5.6
	不安でない計	495	73.1	10.3	13.3	3.2-
情報化や技術の進歩についていけないこと	不安計(注3)	892	69.8	11.9	13.3	4.9
	不安でない計	593	69.0	12.1	14.7	4.2
個人情報が流出すること	不安計(注3)	1,357	69.6	10.5	14.7	5.2
	不安でない計	379	69.9	12.9	13.5	3.7
何かするときには、いろいろ情報を収集して研究するほうだ	あてはまる計(注4)	1,345	68.8	12.9+	14.1	4.2-
	あてはまらない計	263	73.8	8.4	12.9	4.9

(注1) 健康状態を、「健康である」「まあ健康である」「あまり健康でない」「健康でない」の4段階で尋ね、前者2つを「健康計」、後者2つを「健康ではない計」とした
(注2) オンライン診療・処方の頻度を尋ね「毎日」「週5～6回」「週3～4回」「週1～2回」「月1～3回」「2～3か月に1回」「年に1～3回」を「利用あり」、「ほとんど利用していない」「利用していない・該当しない」を「利用なし」とした
(注3) 「手厚い医療サービスを受けられないこと」「医療ミスや院内感染による被害を受けること」「情報化や技術の進歩についていけないこと」「個人情報が流出すること」について不安に感じるかを尋ね、「不安である」「やや不安である」を「不安計」、「あまり不安でない」「不安でない」を「不安でない計」とした。「どちらともいえない」「該当しない」は省略した。
(注4) 「何かするときには、いろいろ情報を収集して研究するほうだ」についてあてはまるかどうかを尋ね、「あてはまる」「ややあてはまる」を「あてはまる計」、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を「あてはまらない計」とした。「どちらともいえない」は省略した。
(注5) 全体と比べて差のある数値に± (5%有意水準)
(出典) ニッセイ基礎研究所「生活に関する調査」(2023年6月)

次に、健康状態、医療機関等受診状況や、医療サービス、情報利用や情報セキュリティに対する考え方別に紐づけ状況を対象者全体と比較すると（図表4）、健康状態が良い人、定期的な投薬・通院を要する持病がある人、自分の健康状態をいつも把握している人で「既に登録をした」が高かった。一方、健康でない人で「わからない・マイナンバーカードを受け取っていない」が、何かするときには、いろいろ情報を収集して研究する人で「まだ登録していないが登録するつもり」が、それぞれ高かった。なお、情報化や技術の進歩についていけないことや個人情報流出することに不安を感じるかどうかでは、登録状況に大きな差はなかった。

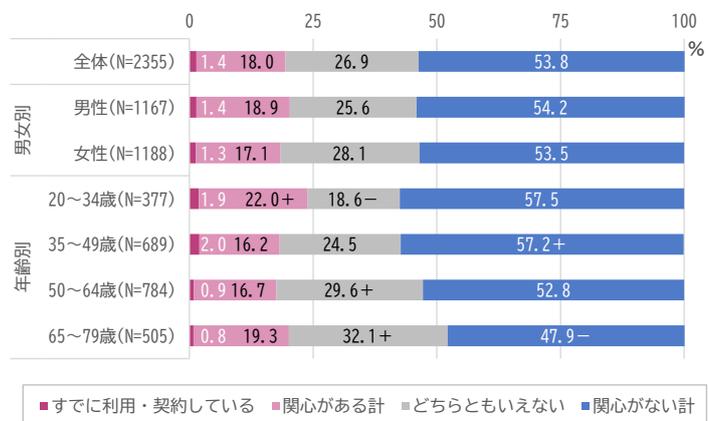
2 | マイナポータルを使った健診結果や受診記録等閲覧への関心

続いて、国によるマイナポータルを使った健康診断や受診記録の閲覧について、これまでの利用経験と関心を尋ねたところ、「すでに利用している」と回答したのは1.4%だった。「関心がある計（関心がある+やや関心がある）」は18.0%で、半数強が「関心がない計（あまり関心がない+関心がない）」と回答した。（図表5）。

性別・年齢別にみると、男女差は小さかったが、年齢別にみると、全体と比べて20～34歳で「関心がある計」が、35～49歳で「関心がない計」が、50歳以上で「どちらともいえない」が、それぞれ有意に高かった。20～34歳は、「関心がない計」も6割弱と他年代と比べて高かったが、「関心がある計」も2割を超えて他年代よりも高く、人によって差があるようだった。

マイナポータルを使った健診結果や受診記録の閲覧への関心状況についても、健康状態、医療機関等受診状況や、医療サービス、情報利用や情報セキュリティに対する考え方別にみると（図表6）、自分の健康状態をいつも自分で把握している人、情報化や技術の進歩についていけないことへの不安がない人で「すでに利用・契約している」の割合が高かった。また、定期的な投薬・通院を要する持病がある人、オンライン診療・処方利用がある人、自分の健康状態をいつも自分で把握している人で「関心がある計」が高かった。手厚い医療サービスをうけられないことや医療ミスや院内感染による被害をうけることといった医療サービスに対して不安を感じている人や、情報化や技術の進歩についていけないこと、個人情報流出することに対して不安を感じている人も「関心がある計」が高かった。何かするときには、いろいろ情報を収集して研究する人でも、「関心がある計」が高かった。

図表5 マイナポータルでの健診結果・受診記録閲覧への関心（男女・年齢別）



（注）全体と比べて差のある数値に±（5%有意水準）
（出典）ニッセイ基礎研究所「生活に関する調査」（2023年6月）

図表6 マイナポータルでの健診結果・受診記録閲覧への関心（考え方別）

		N	すでに利用・ 契約 している	関心がある 計	どちらとも いえない	関心がない 計	(%)
全体[再掲]		2,355	1.4	18.0	26.9	53.8	
健康状態	健康計（注1）	1,714	1.1-	17.7	27.3	53.9	
	健康ではない計	641	2.0	18.8	25.7	53.4	
定期的な投薬・通院を要する持病の有無	ある	894	1.6	20.2+	28.6	49.6-	
	ない	1,461	1.2	16.6-	25.8	56.4+	
オンライン診療・処方有無	利用あり計（注2）	93	2.2	32.2+	29.0	36.6-	
	利用なし計	2,262	1.3-	17.4-	26.8	54.5+	
自分の健康状態は、いつも自分で把握している	あてはまる	573	2.4+	24.9+	27.1	45.5-	
	あてはまらない	1,782	1.0-	15.7-	26.8	56.5+	
手厚い医療サービスを受けられないこと	不安計（注3）	1,006	1.1	22.2+	28.4	48.4-	
	不安でない計	406	1.2	16.5	18.5-	63.8+	
医療ミスや院内感染による被害を受けること	不安計（注3）	893	1.1	24.6+	26.7	47.6-	
	不安でない計	495	2.2	15.1	20.0-	62.6+	
情報化や技術の進歩についていけないこと	不安計（注3）	892	0.8	24.8+	25.9	48.5-	
	不安でない計	593	2.4+	15.2-	20.9-	61.5+	
個人情報が流出すること	不安計（注3）	1,357	1.3	21.5+	27.4	49.8-	
	不安でない計	379	2.1	14.0-	19.3-	64.6+	
何かするときには、いろいろな情報を収集して研究するほうだ	あてはまる計（注4）	1,345	1.7	21.0+	26.7	50.6-	
	あてはまらない計	263	1.1	16.7	19.4-	62.7+	

（注1）健康状態を、「健康である」「まあ健康である」「あまり健康でない」「健康でない」の4段階で尋ね、前者2つを「健康計」、後者2つを「健康ではない計」とした
 （注2）オンライン診療・処方の頻度を尋ね「毎日」「週5~6回」「週3~4回」「週1~2回」「月1~3回」「2~3か月に1回」「年に1~3回」を「利用あり」、「ほとんど利用していない」「利用していない・該当しない」を「利用なし」とした
 （注3）「手厚い医療サービスを受けられないこと」「医療ミスや院内感染による被害を受けること」「情報化や技術の進歩についていけないこと」「個人情報が流出すること」について不安を感じるかを尋ね、「不安である」「やや不安である」を「不安計」、「あまり不安でない」「不安でない」を「不安でない計」とした。「どちらともいえない」「該当しない」は省略した。
 （注4）「何かするときには、いろいろな情報を収集して研究するほうだ」についてあてはまるかどうかを尋ね、「あてはまる」「ややあてはまる」を「あてはまる計」、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を「あてはまらない計」とした。「どちらともいえない」は省略した。
 （注5）全体と比べて差のある数値に±（5%有意水準）
 （出典）ニッセイ基礎研究所「生活に関する調査」（2023年6月）

4—おわりに

以上のとおり、国の公表資料によれば、昨年12月時点で、マイナンバーカードを持つ人の7割程度が保険証としての登録を済ませていた。医療機関においては、9割程度が既にオンライン資格確認のためのカードリーダーの運用を開始していた。マイナンバーカードの普及と保険証との紐づけが進み、カードリーダーを置く病院が増えたことで、当初と比べれば利用は増えてはいるが、今のところ、受診の多くが従来の保険証で行われているようだ。

ニッセイ基礎研究所が行った調査を使って保険証の登録状況についてみると、7割程度が既に保険証としての登録を済ませていた。まだ登録していないが登録するつもりと回答した割合は1割程度あり、合わせて8割程度はいずれ登録を済ませると考えられる。

65歳以上や、定期的な投薬・通院を要する持病がある人等受診機会が多いと思われる人や、自分の健康状態に関心がある人で、既に登録をしている割合が高かったことと、20~34歳等、受診機会が少ないと思われる人で登録する予定がないと回答する割合が高いことから、医療機関の受診等の機会が多かったり自分の健康状態に関心がある人の方が、国が考える医療DXの背景やメリットを理解しやすい可能性が考えられるほか、利用できないと困るため、登録手続きを急いで行った可能性が考えられる。また、健康状態が良い人で既に登録している割合が高いことと、健康状態が良くない人で「わからない・マイナンバーカードを受け取っていない」と回答した割合が高かったことから、健康上の問題で、マイナンバーカード取得や保険証との紐づけにおいて何らかのサポートを必要としている人

もいる可能性が考えられる。また、何かをするときには情報を収集して研究する人で「まだ登録していないが登録するつもり」が高いことから、情報を集めても紐づけを行う背景やメリットが十分に伝わっていない可能性が考えられる。いろいろ情報を収集して研究する人は、全体の57.1%と人数も比較的多いことから、現在保険証との紐づけを行っていない人の中には、情報を集めても登録に至っていない可能性が考えられる。改めて、従来の保険証を廃止する理由や背景、マイナンバーカードを利用するメリットを周知することが必要だろう。

続いて、マイナポータルを使った健診結果や受診記録等閲覧状況についてみると、すでに利用しているのは、今のところ自分の健康への関心が高く、マイナポータルを利用することや健診情報等の閲覧に抵抗感が少ない一部の人に限定されると考えられる。また、定期的な投薬・通院を要する持病があったり、オンライン診療・処方利用がある等の受診機会が多い人や、自分の健康に関心がある人で情報閲覧にも関心があった。受診機会が多い人では、再診時や他の症状で受診をする際、過去の健診結果や受診・薬剤情報を振り返る機会がある可能性があり、関心が高いものと考えられる。また、医療サービスや、情報利用、情報セキュリティに不安を感じている人でも情報閲覧にも関心があった。これらの不安については、不安を感じる人の方が感じない人より多く、一般的な不安だと考えられる。こういった不安を持っていても、マイナポータルを介した健診結果や受診記録等の閲覧への関心は持っており、マイナポータルによる閲覧は幅広く関心を持たれているようだ。実際に閲覧するかどうかはわからないが、閲覧した結果、自分の健康状態が把握しやすいものであれば、今後利用が増える可能性がある。

マイナンバーカードの保険証としての利用は、医療機関等でこれまでの健診結果や受診記録・薬剤記録等を活用することで、受診の度に同じような検査を繰り返し受けることを避けたり、過去の症状を踏まえて治療を進められることや、マイナポータルを介して自分自身の健康状態や処方内容を確認できることがメリットの1つである。保険証との紐づけが進んだとしても、医療機関等で過去の記録を利用や、マイナポータルを介した確認が進まなければ、従来の保険証から切り替える意味が少なくなる。マイナンバーカードを保険証として利用すること、過去の特定健診の結果や診療・薬剤情報を利用すること、自分の健診結果や受診歴、予防接種歴を閲覧すること、それぞれについて、どういったメリットがあるか示していくことが必要となるだろう。